

所要時間 60分

問 地方創生事業に臨む意気込みを

答 アイデアが採択されただけでは済まされない部分もあります

地方創生事業の進捗状況

問 地方創生加速化交付金の申請が不採択となった結果を受け、同交付金の二次募集や事業費の2分の1が補助される地方創生推進交付金への応募の進捗状況、今後の予定は。

町長 成田空港へのアクセス強化等を盛り込んだ選ばれる田舎プロジェクト事業の内容を見直し、最終的な調整を行っています。推進交付金については、申請に向け各課と協議し、活用する方向を検討しています。

問 国からの交付金を受け新たな事業を始めることができるチャンスであった加速化交付金。国が言う先駆的な取り組みや稼げる町づくりに対して町はどこを柱に事業内容を計画したのですか。

企画空港政策課長 町の課題である公共交通の確保として、シャトルバスの増便を柱に、観光施策や農業施策を加え申

請をしました。

問 施策には数値目標やKPI（重要業績評価指標）の検証、PDCAサイクルに基づく経営などの専門知識が必要です。計画・検証の中での外部人材の登用の考えは。また地方創生事業に対する職員の研修状況は。

企画空港政策課長 加速化交付金二次募集にはアドバイザーの招致を盛り込んでいます。KPIの検証については総合戦略推進会議委員からの検証を予定しています。職員の研修については7月に県内で予定されるものに私と担当係長が行く予定です。

問 5年間の地方創生事業ですが、財政的措置の保証はなく、精査は更に厳しくなると聞いています。今回の結果は私たち議員はもとより、行政に携わる町長をはじめ執行部の方々も町民に対し責任があるのでは。近隣の町は新たな事業に着手しています。事業に臨む意気込みをお聞かせください。

町長 総合的にこれから国、県との協議を重ねていく中で、地方創生のあるべき姿を位置付けたので、採択されただけでこの事業は表面上うまく行ったように見えますが、そればかりではないとの認識です。

今後の学校教育の対応

問 部活動指導による教職員の時間外勤務の多さに対して、その負担を軽減するため専門講師や地域の方の協力を活用する考えは。

教育長 国の中教審でも問題視されていて、部活動指導員を制度化しようとの動きも出ています。教職員の過重な労働が削減できるよう、各学校と協議しながら方策を考えています。民間の部活動指導の専門家は費用がかかるなど、今後検討していく内容と思います。

問 キャリア教育の職場体験について、毎年町内企業に限っていますが、空港内や大きな企業が



菅澤環議員

ある多古工業団地内での実施を考えた。

教育長 他の中学校では体験学習で町外にでています。本町は町民が町の子どもとして育てようとの意図が色濃く、あえて全員が町内で体験できるようにしています。工業団地での体験は是非積極的に考えていきたい。



あじさい祭りへの参加もキャリア教育

※PDCAサイクル：計画・実行・評価・改善の4段階を繰り返すことで、業務を継続的に改善する手法。

所要時間 40分

問 こども園の遊具・植栽を増設する考えは

答 スペース的に可能であれば順次設置していきたい

こども園の遊具・植栽の増設は

問 幼保一元化で多古町の保育所・幼稚園がこども園に集約され3年目に入りました。多古町中の園児たちが遊ぶには、遊具や木陰となる樹木が少ないのでは。

町長 遊具や植栽については、当初より様子を見ながら増設する考えでした。遊具については保護者や職員、他の施設の状態を参考に、園内の配置等を勘案しながら設置を検討していきたい。樹木は幼児の自然体験を豊かにし、心身や感受性の発達に必要なものであり、木陰は涼める遊び場として屋外活動に有効なものですので、植栽の検討を続けていきます。

問 遊具の順番待ちで時間となってしまう園児も多いそうです。子どもたちみんなが使って、伸びびと遊べるようにすることも必要では。

子ども園事務長 園庭のスペースは、運動会等の関係や給排水の配管等の状況である程度限られています。現在ある遊具の配置等を考え、スペース的に可能であれば順次設置していきたい。

問 以前に比べて腕の筋力低下が心配されますので、腕を鍛える遊具の設置についての対応は。

子ども園園長 こども園で過ごした子どもとそれ以前の子で体力・運動能力を比較すると、走る・俊敏性は向上していますが、腕の力は不足しているかもしれませんので、そういった遊具等も検討していきたい。

こども園前の交通安全対策は

問 こども園とスーパの出入口は時間帯により大変危険な場面があり、事故等が起きる前に対策が必要では。

町長 こども園から道路へ出る際の注意喚起の看板設置や保



特に右折時は注意が必要

護者への文書による啓発等、交通事故防止に努めます。必要によりスーパの車の出入りを町道染井・多古台線側にもらう等、スーパ、道路管理者と協議して対応を検討しています。

空港機能強化の諸問題

問 成田空港第3滑走路増設にかかる空港敷地問題、騒音問題等を含め、隣接する土地利用についての町の考えは。



山口清議員

町長 成田空港機能強化に向け、第3滑走路や騒音コンター等具体的な位置が示された際に、地域住民の意見を十分踏まえ、町の活性化につながるようなインフラ整備等、計画的な土地利用の推進を検討し、積極的な土地利用を国、県、空港会社等に要請していきたい。機能強化によって生じる航空機騒音や落下物等の諸問題についても、地元騒音地域に十分配慮した形で、関係機関と連携、検討、対応していきたい。

問 空港会社が提示しているコンターと個人個人が感じる音の感覚は違うので、きめ細やかな配慮の必要性があるのでは。

町長 できるだけ地域の感情に沿うよう努力すべきで、これからは騒音下のエリアになる地域については精神的に関わっていかなければとの認識です。

※騒音コンター：騒音レベルの等しい点を結んでえられる音の等高線